

病害虫情報 No. 6

トマト黄化葉巻病の発生に注意してください

[現在の状況]

- ①平成18年9月、県内でトマト黄化葉巻病の発生を初めて確認し、これまでに、7市1町（促成27戸、抑制6戸、その他1戸）で発生を確認している。
- ②本病は、タバココナジラミ類の吸汁により媒介されるが、汁液伝染、種子伝染、土壌伝染はしない。タバココナジラミ類の発生量は、昨年の抑制トマトでは平年より多かった。また、促成トマトにおける本年1月の発生量も、平年よりやや多くなっており、今後気温の上昇とともに、さらに増加することが懸念される。
- ③本病は、冬季の低温条件下では病徴が現れにくいため、感染している場合は、今後気温の上昇とともに病徴が現れると考えられる。

[防除対策]

- ①発病が認められた株は、感染源となるため早期に抜き取り、ビニール袋に入れて密封し、株を枯死させてから処分する。
- ②タバココナジラミ類は、発生が多くなると防除が困難となるため、黄色粘着板を利用するなどして発生に注意し、初期防除に努める。なお、薬剤散布にあたっては、薬剤抵抗性の発達を抑えるため同一系統薬剤の連続散布は行わない。（表1、2）
- ③タバココナジラミ類は葉裏に寄生するため、薬液は下方から吹き上げるように散布する等、葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。
- ④タバココナジラミ類の生息場所となるハウス内外の除草を徹底する。
- ⑤栽培終了時には、ハウスの蒸しこみを行い、タバココナジラミ類を確実に死滅させ、野外に出さないようにする。
- ⑥ハウスの開口部に設置が可能な場合は、防虫ネット（0.4mm目合い）を設置し、タバココナジラミ類の外部への飛び出し及び、外部からの飛込みを防止する。なお0.4mm目合いの防虫ネットを設置した場合、通気性が低下し、灰色かび病等、病害の発生が助長されたり、ハウス内の温度が高くなったりすることが予想されるので、ダクト通風やサイドの開閉等、温湿度管理には十分注意する。

トマト黄化葉巻ウイルスは、冬季は促成ハウス内の罹病株や、保毒したタバココナジラミ類に存在すると考えられます。このため、今後の感染拡大を防ぐためには、保毒虫をハウスから野外に出さないことが最も重要です。

表1 タバココナジラミ類に対して有効とされる主な薬剤（平成19年1月24日現在）

薬剤名	有効成分名	コナジラミ類またはタバココナジラミ類 に対する登録の有無	
		トマト	ミニトマト
ベストガード粒剤	ニテンピラム	○	○
アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン	○	○
スタークル顆粒水溶剤		○	○
サンマイトフロアブル	ピリダベン	○	
コロマイト乳剤	ミルベメクチン	○	○

※農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用基準を守り、周辺作物への飛散（ドリフト）に注意して行って下さい。

表2 タバココナジラミ類に対して有効とされる主な生物農薬又は、物理的な作用による防除薬剤

（平成19年1月24日現在）

薬剤名	有効成分名	コナジラミ類またはタバココナジラミ類 に対する登録の有無	
		トマト	ミニトマト
ボタニガードES	ポーベリア バシアーナ	○	○
オレート液剤	オレイン酸ナトリウム	○	
粘着くん液剤	ヒドロキシプロピルデンブレン	○	

※農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用基準を守り、周辺作物への飛散（ドリフト）に注意して行って下さい。